

魚住まちづくり計画

～人と人が交流し 人と自然が共生する

いつまでも安心して住み続けたいまち～



2015年 3月

魚住まちづくり協議会

- 目 次 -

- P 1 はじめに
- P 2 計画の基本姿勢・魚住小学校区の概況
- P 3 住民アンケート報告
- P 4 こんなまちになったらいいねーまちの将来像ー
- P 5 ビジョン図
- P 7 新しいまちづくりを進めていきます
- P 8 まちづくりの方針
- P 9 こうやって取り組んでいこう

はじめに

この計画の策定に当たっては、魚住まちづくり検討チームが、「住みよい・住みたい魚住」のまちづくりを目指して、全世帯アンケート、考える座談会などで、校区内の課題や要望について調べました。

まちづくりの第一歩として、この計画書にまとめ、皆さんと共に、課題解決に向け具体的な行動を推進していきたいと考えています。

地域づくりには、4人の人が必要であると言われていました。

「土の人」地元でその地域を愛する人

「風の人」よそから来て、新しい風を吹かせる人

「水の人」表面には出ないけれど、うまく色々なつながりができる人

「火の人」火付け役・リーダー

この4種類の人が若者から高齢者まで、自分ができる範囲の中で自分の役割を見つけ、行動する、自分の居場所（生きがい・楽しさ）を地域づくりの現場の中に見つけて、行動する人もいます。これが「協働」のベースとなり、一人ひとりの力がこれからの魚住地域全体の推進力につながっていきます。

行政に「おまかせ」、あるいは「やらせる・やらされる」でなく、住民自ら『まち』のことを考えて決めていく活動が「つながり」、「ひろがり」、「続く」ことを願い、未来を担う子どもたちのために、今からできることをみんなと一緒に始めましょう。

平成27年3月

魚住まちづくり協議会

会長 武久 栄一

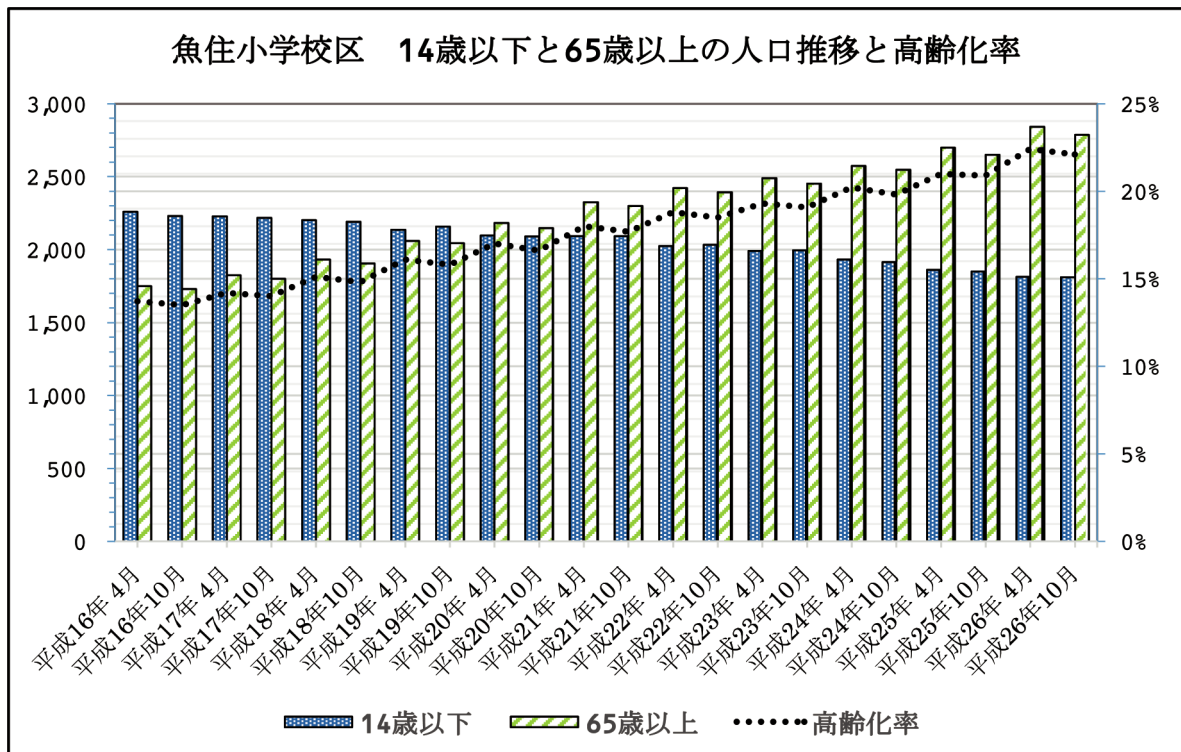
計画の基本姿勢

- ① “住みよい・住みたい魚住” を目指し、より快適で魅力的なまちづくりを進めていくため、あらためて私たちの校区を見つめ・知り・学びます。
- ② これまで培われた経験や知恵・技・アイデアを、もっと多くの誰かのために役立てるよう、足元から出来ることを行います。
- ③ 一人ひとりが校区について主体的に考え、行動できる文化を育てることこそが、次世代に対する最大の貢献であると考えます。
- ④ 10年を目途に立案した本計画を速やかに実践し、今後3年毎に検証していきます。

魚住小学校区の概況

私たちの小学校区は、明石市の北西部に位置し、西国街道・太山寺道の旧街道があり、今も生活道路として現役です。沿道には、社寺、道標が点在しています。そして、多くの灌漑用ため池と金ヶ崎公園があります。キャベツ、レタス、ブロッコリー、スイートコーンなどの野菜と米を中心とした農業が盛んな地域です。

校区は17の自治会で構成され、総人口は市内で7番目に多い約12,600人（約5,300世帯）、面積は3,062平方kmで、市内で4番目に広い小学校区です。



資料出所)明石市HP 統計情報(人口と統計)から

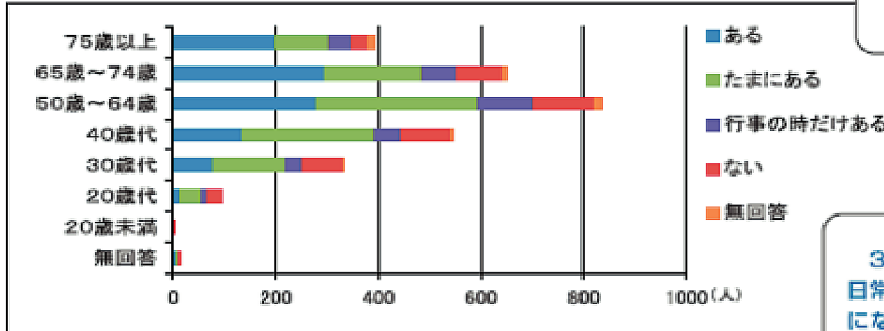
住民アンケート報告

アンケート回収率66.4%(2,844 世帯)

平成25年8月実施

地域の交流について

●自治会や周りの住民の方と交流はありますか？(年齢別に集計)

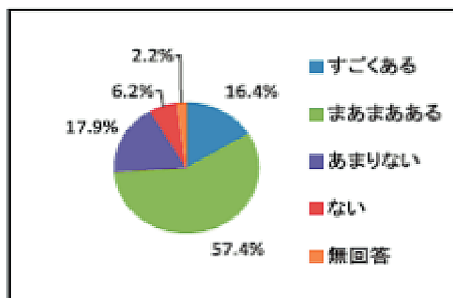


全体では
 ・ある 35.4%
 ・たまにある 36.4%
 ・行事の時だけ 11.1%
 ・ない 15.8%

30,40歳代の子育て世代では、日常的な交流が少なく50歳以上になると、交流が多くなる傾向が見られました。

これからのまちづくりについて

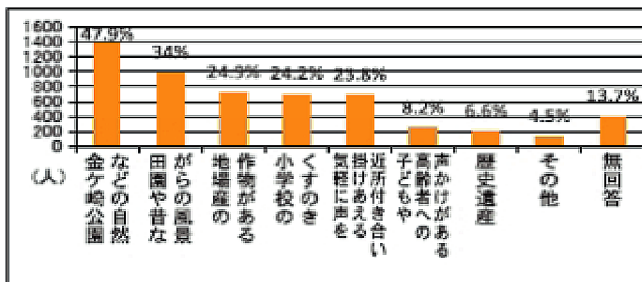
●魚住小校区または地域に愛着はありますか？



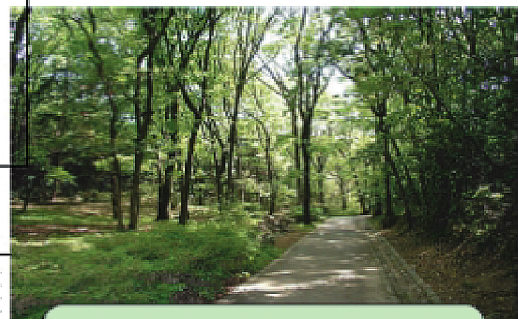
すごくある、まあまああるで
73.8%もの高い回答率でした。

緑豊かな魚住が
私たちの誇り、愛着！

●魚住小校区または地域で誇れるものは何ですか？

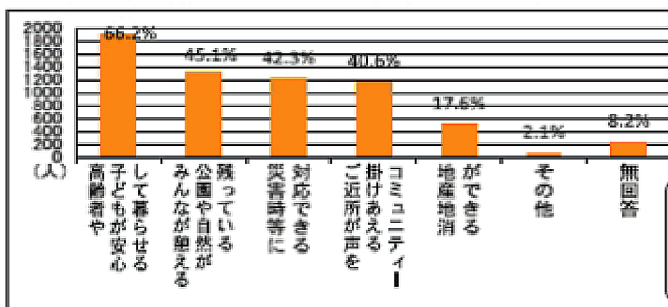


約48%が金ヶ崎公園などの自然、34%が田園や昔ながらの風景でした。



金ヶ崎公園のコナラ・アベマキ林

●これから先どんな地域にしていきたいですか？



住民すべてが、緑豊かな自然に囲まれ、心豊かに、安心して暮らせるまちが一番

こんなまちになったらいいね！

—まちの将来像—

私たちは、平成26年1月から計4回、「魚住小校区のこれからを考える座談会」を開きました。その中で、魚住の「魅力」と身近な「課題」を出し合い、将来「こんなまちになってほしい」の想いをキーワードでまとめ、校区まちづくりビジョンができあがりしました。

その実現に向けて必要な取り組みや体制について、地域の皆さんと意見交換し、議論を積み重ね、「まちの将来像」を次のようにまとめました。



—座談会の様子—

☆世代間交流があたりまえのまち

子どもから高齢者までが互いに支え合い（挨拶、つながり）、助け合うことのできるまち。

☆豊かな自然環境を守り育てるまち

金ヶ崎公園をはじめ、農地、農作物、ため池群など恵まれた自然を、子どもの学習環境、私たちも地産地消と、後世につないでいくまち。

☆安全で安心して住み続けたいまち

子どもが安心して学び、遊ぶことができるまち。高齢者も、障がい者も、安心して住み続けられるまち。地域の防災、要援護者対策など、地域と人が安全安心を共有しているまち。

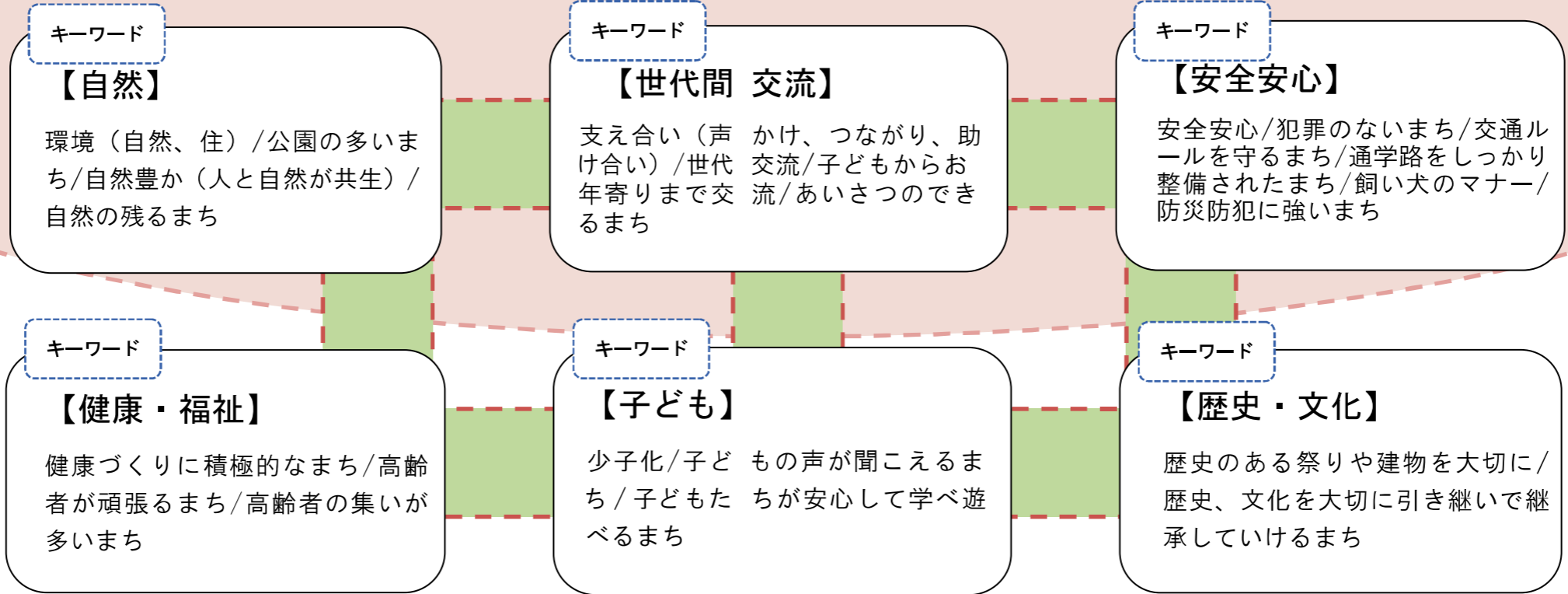
☆人が気軽に活動できるまち

自分ができることを、できる時に、できる場所で活動するなど、助け合い、支え合いの気持ちで、気軽に参加できる仕組みがあるまち。

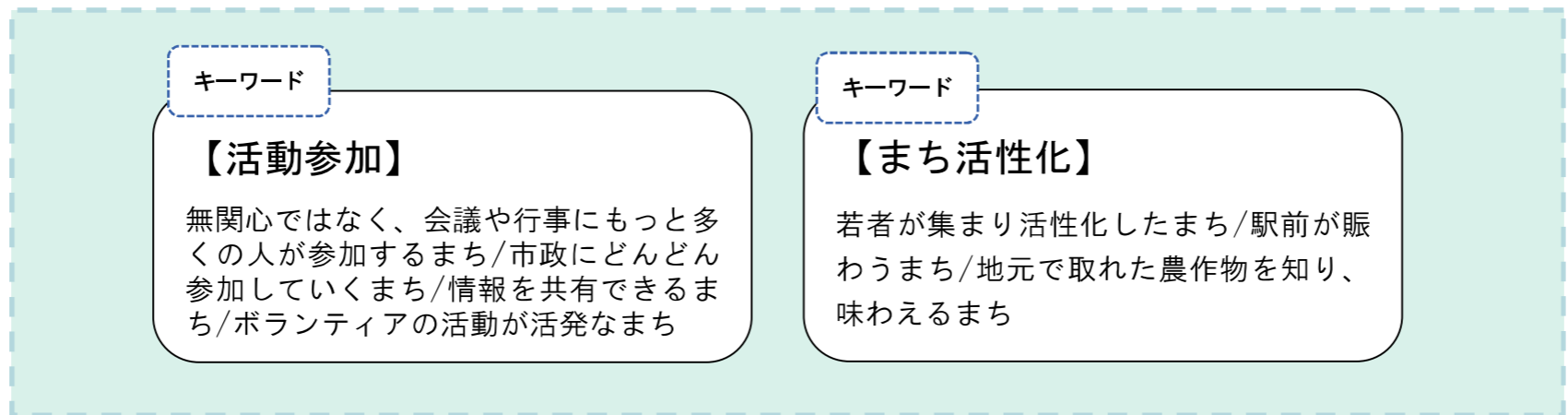
私たちは、魚住小学校区がこんなまちになることを望んでいます。

《魚住小校区のまちづくりビジョン》
 「人と人が交流し、人と自然が共生する、いつまでも安心して住み続けたいまち」

各グループから共通して出たまちづくりビジョンにつながるキーワード(3つ)



活動や組織体制につながるキーワード(6つ)



魚住小校区のまちづくりの前提となるキーワード(2つ)

新しいまちづくりを進めていきます

健康 福祉

- ◇魚住らしい健康づくり
- ◇元気なお年寄りが集うまち
- ◇地域で地域住民見守り



まちあるき



- ◇防災に強いまちづくり
- ◇通行マナーの向上
- ◇地域ぐるみの防犯対策

安全

子ども

- ◇安心して子育て出来る環境づくり
- ◇子どもの居場所づくり
- ◇多世代交流で作る人の輪



- ◇身近な自然の保全
- ◇歴史・文化の継承
- ◇ゴミなど環境問題への積極的な取り組み

自然 環境 歴史



まちづくりの方針

☆子どもからお年寄りまでつながって

「いつまでも安心して住み続けたいまちにしたい」を共通の思いに、人と人のつながるコミュニティを失わないために、次世代の子どもたちが楽しく安全で過ごせて、自然豊かな環境の中で、近隣の人々の顔がよく見える、活気ある住民主体のまちづくりを進めていきます。

☆「人の輪づくり」「横のつながり」を大切に

魚住小学校区内の地域住民、各種団体、企業等が、連携・協力=協働のもと、特色あるまちづくりを進めていきます。また、各部会内外において、団体間の目的や目標を合意・共有し互いの特性を活かした事業を行っていきます。これらの調整を担う人材の発掘・育成も合わせて進めていきます。

☆同じ思いに集まって

広く情報公開を行い、住民間の情報の共有を図るとともに、各世代が自由に意見交換できる機会を提供し、地域住民の幅広い意見集約を進めていきます。

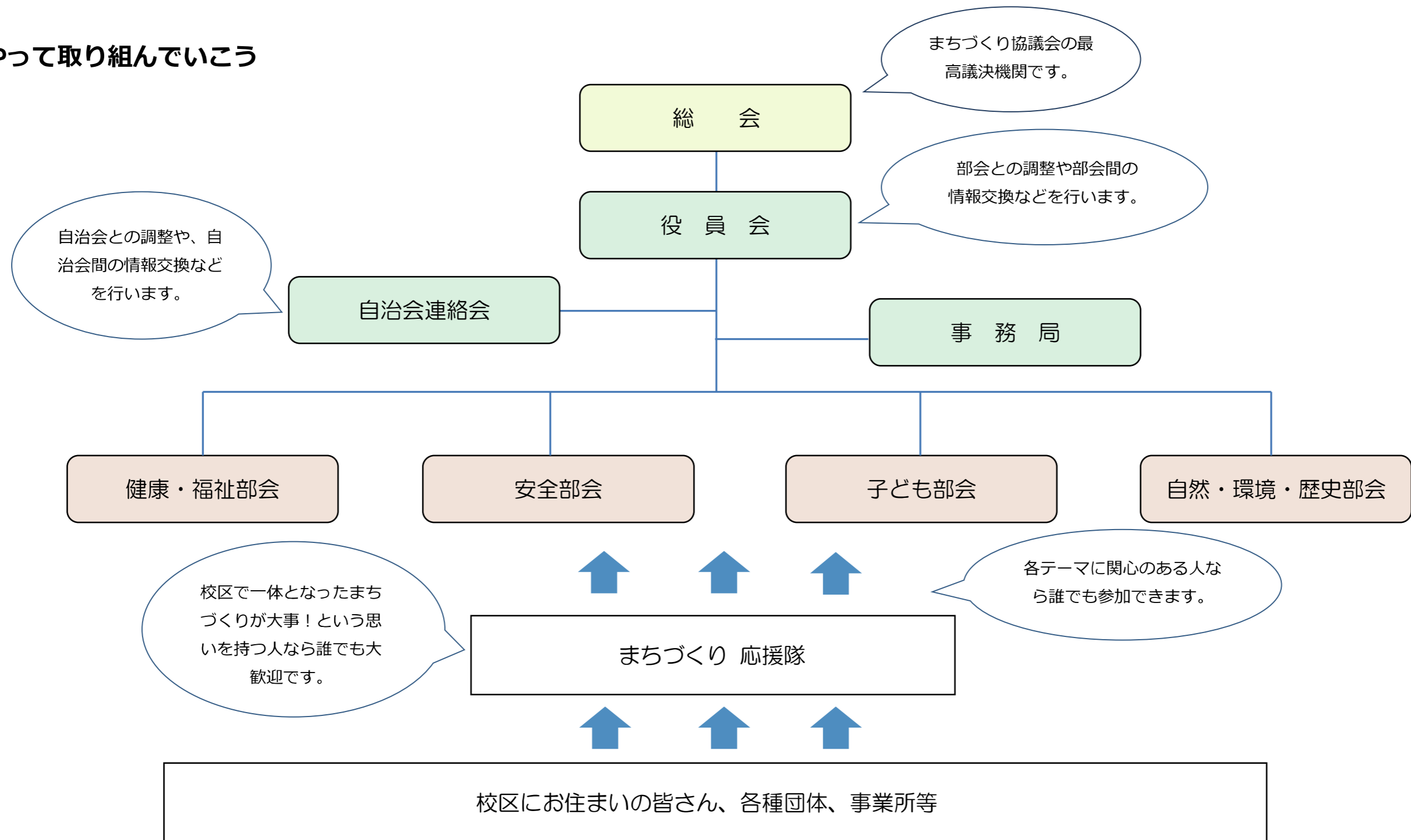
☆事業主体者も「きがるに」「たのしく」

各団体間の思いを共有し重複事業等の整理を行い、人材確保、資金不足等の問題を解消し、参加者はもちろん事業を計画・実行・運営する人たちも気軽に楽しく関わられるまちづくりを進めていきます。

老いも若きも世間（社会）との関わりを持つことは、心身の健康を保つ大きな要因です。

まずはできることから一緒に始めていきましょう。

こうやって取り組んでいこう



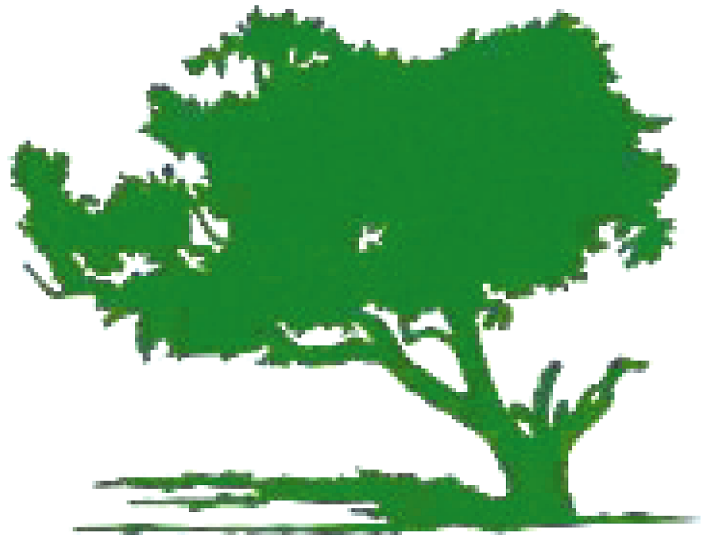
自分も何かやってみたい！という方は

校区のまちづくりに何か関わってみたい、空いている時間に何かできないかな、と考えているみなさん、一緒に楽しく活動してみませんか？

魚住まちづくり協議会は、無理のない範囲で活動に関わってくれる方を大募集しています。

関心のある方はお気軽に魚住まちづくり協議会までご連絡ください。 TEL 078-202-6495





-魚住小のくすのき(推定樹齡 115年)-

つながり

広げ、続ける

まちづくり

魚住まちづくり協議会